

# 矢板の工場紹介

市内には技術力や業界シェアが高い工場が多く存在します。よく名前を聞く会社だけど仕事内容・技術力は知らない…なんてことはありませんか？皆さんが知っているようで知らない市内工場の魅力をお伝えします！

## 日本一の品質・コスト・納期を目指す！ 日光金属株式会社

**●会社の概要**  
 矢板市役所から県道三十号（矢板那須線）を南へ向かい、矢板ICを過ぎた小高い場所に日光金属（株）があります。この工場では、一般の人にはあまりなじみのない耐熱鋳造品を作っています。いったいどのような製品が作られているのか、佐藤正太郎社長にお話を伺いました。



平成元年に会社を設立。平成二十五年に片岡工場とカンボジアのプノンペンに工場を開設し、平成二十九年に本社を現在の

片岡工場に移転しました。創業時は二人の従業員でスタートしましたが、現在では九十五人（うち矢板市民は約半数）で、製品の設計、製造、販売までと同業他社に負けない生産体制を有しています。また、熱処理治具（トレイ）の国内シェアは二十%以上を誇っています。

**●主な製造品目**  
 耐熱摩耗鋳造品（砂型鋳物）を主製品として、自動車メーカーの工場などで使用する製品や耐摩耗鋳造品（砕石機械部品など）やゴミ焼却施設の焼却炉内で使用する製品（火格子）、ステンレス溶接加工品などを製造しています。

製品は、素材のニッケルやクロムなどの金属を、千六百度の高温で溶かし、型に流し込むため特殊技能が必要です。製品の主たるものは、熱処理治具と呼ばれる物です。



※治具（ジグ）とは？  
 加工や組み立ての際に用いる器具の総称で、同一形状の製品などを製造する際に、作業位置の指示や誘導をするために用いられます。

自動車メーカーでは、歯車の熱処理をしています。その工程で使用する治具を各社の要望に応じてオーダーメイドで製造しています。また、各家庭で排出されたゴミなどを焼却する焼却施設では、高温に耐える設備が必要となります。その設備で使用する部品を主に市町村のごみ焼却施設などに供給しています。

製造の業界では、設計製造から販売までを行うのは珍しく、一貫した体制で取引先の要求にお応えしています。また、鋳造品を製造する過程で鋳物の型には砂を使用します。型として使用する際には砂に接着剤を混ぜたものを使用しますが、鋳造後は砂と接着剤に分離する設備を使用し、砂を九十五%以上再利用しています。

**●将来の目標は**  
 四年前に研究所を設置し、品質の向上や技術力を向上させています。具休例として、ゴミ焼却場では、ゴミの種類によっては火格子の寿命が短くなります。そのため、長寿命化の研究をするための試験装置を開発しました。また、製品の付加価値



**●問い合わせ**  
 日光金属株式会社  
 住所：片岡二〇六六一  
 電話：（四七）四五八一